

5 年 1 組 国語科学習指導案

場所 5 年 1 組教室
授業者 馬淵 彩子

- 1 単元・教材名 登場人物どうしの関わりをとらえ、感想を伝え合おう
「なまえつけてよ」

2 指導の立場

(1) 教材観

本単元は、高学年最初の読み物単元として、特に人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえる力をつけることを目標の中心とする。

この物語は、主人公春花が「子馬に名前を付ける」という出来事を通して、転校生の勇太との関わりを深めていく様子が、時系列で描かれている。主人公の小学五年生の女の子、春花は、子馬に名前を付ける機会を与えられ、いつも眺めているだけの存在であった馬が、よりいっそう身近になるようなわくわくした体験をするのだが、残念ながらその機会は失われてしまう。それを見た勇太は、翌日春花に手作りの紙の馬を渡す。春花が紙の馬に名前を付けるという行為が、勇太との親密な関係を作り出すきっかけになる。

この物語では、二人の会話はほとんどなく、心情描写や行動描写によって関わりの変化や深まりを読み取っていく。「相手に対してどう感じているのか」を、人物マップの活用によって読み取っていくことで、相互関係の変化を読み取る力をつけるのに適した教材だと考える。

(2) 児童の実態

第 5 学年の国語学習の導入で読んだ「あめ玉」では、物語の設定、さむらいの人物像、母親のさむらいに対する思いの変化を、言葉に着目して読み取った。そして、読み取りの視点として、様子、行動を表す表現に着目することを示した。物語の設定についてはほぼ全員の児童が正しく読むことができた。また、「母親は、さむらいは怖いと思っていたけど、最後は見かけによらず優しいと思った。」という読みは、ほとんどの児童がすることはできたが、根拠が明確でなかったり、表面的な読みで終わっていたりする子も多く、全体に読み深めるという点においてまだ不十分であると考ええる。

発言の実態としては、意欲的に発言しようとするが、仲間の意見と関わらせながら、読みを深めていくという点ではまだまだ弱い。つけたしや同意見、反対意見として発言できる子は、3 割ほどいるが、発言の際に聞き手を意識して話そうとする姿勢が弱く、仲間とともに読み深めていくという意識の弱さが感じられる。

(3) 指導観

【研究内容 1】に関わって

第 3 次に「物語のその後を発表する」という言語活動を設定する。そのため、単元を通す五つの言語意識を、次のように設定する。

相手意識・・・学級の仲間に

目的意識・・・どのように関わりが変化していくか、自分の考えを仲間に伝えるために

方法意識・・・記述をもとに読み取った人物の相互関係をワークシートに表すことによって

場面状況意識・・・読み取った関わりの変化を、ワークシートで示しながら話すことで

評価意識・・・登場人物の関わりの変化を読み取り、自分の考えをもつことができている。

春花と勇太がお互いに相手に対してどのような思いを抱いていたかを、変化が視覚的に分かりやすいように工夫したワークシートに書き表し、さらに、物語後の二人の関係を考えることで、友情の深まりを考えさせる。ワークシートでの表し方は、視覚的にもわかりやすく、端的な言葉で表現でき、また交流では、どの言葉を根拠に矢印を表現したのかを伝えることができるため、人物の相互関係を読み取る活動として有効であり、第 3 次の、物語後の関わりについて自分の考えをもつときの根拠として、生かすことができると考える。

【研究内容 2】に関わって

本単元では、会話、心情描写、行動描写に着目して、登場人物の関わりを読み取る。四年生までの文学作品の読み取りで大切にしたこと（会話文、繰り返し用いられている言葉など）に加え、「あめ玉」で行った心情と行動について、読みの視点を掲示で示す。一人よみの段階において、本文に線を引き、そこから分かること、自分の考えをノートに書いていくようにする。

そしてまとめの段階では、学習のまとめとして、毎時間ワークシートに書き込みを行うことにより、1日目から3日目までの変化が視覚的にとらえやすいようにする。

【研究内容3】に関わって

交流前段においては、仲間の発言に関わらせて自分の考えを発言できるようにしていく。仲間の発言に、ハンドサインや言葉で反応していくことや、「○○さんにつけたしで」などの話形を大切にしていきたい。学級全体で課題に対する読みが深まるよう、支援していく。

また、この物語では、「その都度」「いいんですー。」など、代名詞やダッシュによって心情が明確に表現されていないところがある。特に本時では、交流後段において、「勇太ってこんなところがあるんだ。」という春花の心内表現に着目し、勇太の行動の意味と、春花の心情の具体化に迫る深めの発問を設定する。それによって、心情を読み取る根拠をより明確化し、確かな読み深めにつながるようにする。

3 単元指導計画 全5時間

【単元の目標】

- 物語を進んで読み、登場人物やあらすじなどをつかもうとすることができる。(関心・意欲・態度)
登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえて、作品についての自分の考えをもち、それを発表し合って、広げたり深めたりすることができる。(読むことエ・オ)
- 文章の中での語句と語句との関係を理解することができる。(伝国イ)

過程	時	主な学習活動	単元を貫く 課題/言語活動		評価規準
一 次	1	全文を読んで、話の内容をつかみ、学習計画をたてよう。 ・全文範読 ・いつ、どこで、だれが、何を話す話かつかむ。 ・単元を貫く課題を知る。 ・「今日の二人ワークシート」の作成を通して、人物相互の関係の変化を捉えていくことを知る。 ・初発の感想を書く。 ・新出漢字、語句の意味調べを行う。	登場人物の関わりの変化を読み取ろう	物語の続きを考えよう	・登場人物について、人柄や状況を大まかにつかみ、人物マップの作成を通して、春花と勇太の関わりの変化を読み取り、物語のその後を考えていく学習の流れを理解している。
	2	1日目の春花と勇太の関わりを読み取ろう。 ・1日目の場面で春花を中心に登場人物をつかむ。 ・会話、行動描写に着目して、春花と勇太の関わりをとらえる。 ※「なによ、 <u>その態度</u> 。」			・会話、行動描写に着目して、春花が勇太と親しくなるきっかけをつかめずにいることを読み取っている。
	3	2日目の春花と勇太の関わりの変化を読み取ろう。 ・2日目に春花と関わった人物をつかむ。 ・会話、行動描写に着目して関わりをとらえる。 ・1日目とどのような変化があったか、交流する。 ※「 <u>いいんですー</u> 。」			・1日目と比べて、無関心な勇太が春花に話しかけたこと、また「いいんですー。」と明るく言った春花を、困ったように見つめたことから、勇太が春花に対して関心をもち始め、自分から関わっていきたいと思っていることを読み取っている。

	4 (本時)	3日目の春花と勇太の関わりの変化を読み取ろう。 ・春花の心情描写から、勇太への思いの変化を見つける。 ・勇太の行動描写から、春花への思いを読み取る。 ・ワークシートを使って、関わりの変化を交流する。 ※「勇太ってこんなところがあるんだ。」			・勇太が紙の馬に「なまえつけてよ」のメッセージを書いて春花に渡したことから、春花が勇太に対して感謝と友情を感じるように変わっていったことを読み取っている。
三 次	5	この先、春花と勇太はどう関わっていくか、ワークシートをもとに考えて交流しよう。 ・これまでに読み取った関わりの変化をもとに、春花と勇太の関わりについて、。 ・仲間と交流する。			・これまでの読み取りを根拠に、春花と勇太が、これからさらに友情を深めていく様子を考えて、交流している。

4 本時のねらい

紙の馬を渡した勇太の行動と春花の心情描写に着目し、春花と勇太の関わりをワークシートに書き込むことを通して、春花の勇太に対する感謝と友情に気付き、二人の関わりの変化を読み取ることができる。

5 本時の展開（４／５）

* 人権教育の観点

	学 習 活 動	指導・支援 見届けの視点
導入	1 前時までの学習を想起する。 子馬に名前を付けることができなかった春花と、じっと見ている勇太の気持ちを考えた。 2 本時の学習課題を確認する。 3 日目の春花と勇太の関わりの変化を読み取ろう。	○ 前時までのワークシートを元に、2 日目までの関わりの変化を思い起こす。
個人追究	3 一人読みをして、全体交流をする。 - 春花と勇太の行動に着目し、互いに対する心情の変化がわかるところを見つけ、教科書に線を引く。 - どんな思いが読み取れたか、ノートに書き出す。 - 春花の心情描写から、勇太への思いの変化を見つける。 - はっとした。→まさか勇太が自分のために作ってくれたなんて、びっくりした。 - ありがとう。→私をなぐさめようとしてくれてうれしい。 - 心の中でつぶやいた。→直接言うとは恥ずかしいかも。急いで立ち去った勇太の気持ちも尊重したい。 - 勇太の行動描写から、春花への思いを読み取る。 - そっと→わかってくれるかな。 - 急いで→何か言われたら恥ずかしい。	○ 心情描写や行動描写に着目するよう、掲示を示しながら助言する。見つけれない子には、「春花がはっとしたのはなぜだろう。」「勇太が紙の馬を手渡したのは、春花にどんな思いを伝えたかったからだろう。」から考えるよう助言する。
交流前段	- 春花は、勇太が自分の名前を付けられなくてつらい気持ちをわかってきていたと思い、うれしいと思っている。 - あまり親しくないと思っていた勇太に対して、親しみを感じて、友達になりたいと思っている。 - 勇太は、春花に「元気を出して」という気持ちを込めて、紙の馬を渡したと思う。 - 本当の子馬ではないけれど、一生懸命考えたであろう名前を無駄にしまってはかわいそうだと思って、紙の馬を作って渡したと思う。	○ どの言葉から考えたのか、根拠を明確にして話すよう声をかける。 ○ 春花の立場と勇太の立場を分けて、交流を位置付け、板書も視覚的にわかりやすく工夫する。 ○ ハンドサインを活用して、つけ足しなどの意見を積極的に出せるよう、言葉がけをする。
交流後段	4 深めの発問を提示し、読みを深める。 「勇太ってこんなところがあるんだ。」という、「こんなところ」とはどんなところだろうか。 - 優しいところ - 自分のことを思いやってくれているところ - 励まそうとしてくれるところ - 言葉ではうまく表現できないから、無視しているようだけれど、ちゃんと自分の言葉を聞いていてくれるし、気持ちを考えていてくれる。 - 私のことを、友達だと考えていてくれる。	* 言葉を手がかりに、春花、勇太の気持ちを豊かに想像する力を育てる。（自己啓発力） ○ 「こんな」で表されている春花の勇太に対する心情から、友情の深まりを読み取れるようにする。 読み取ったことをワークシートに記入することができているか。（定着状況の見届け）
まとめ	5 本時読み取ったことを、人物マップに書き込み、春花と勇太の関わりの変化をまとめる。 初めは、どのように話してよいかわからず、腹の立つ相手だった勇太だけれど、子馬に名前を付けられなかった自分のために、紙の馬を作って「なまえつけてよ」と伝えてくれた勇太を、優しいと思い、これからはもっと仲よくなっていきたいと思った。	勇太が紙の馬に「なまえつけてよ」のメッセージを書いて春花に渡したことから、春花が勇太に対して感謝と友情を感じるように変わっていったことを読み取っている。